

非核の政府を求める石川の会 会報

# 非核・いしかわ

## 二〇一五年NPT再検討会議に向けて 大きな飛躍を

―ニューヨーク行動に期待すること―

井上 英夫



金沢大学名誉教授、高齢者運動基金理事長、非核の政府を求める石川の会代表世話人

核兵器廃絶は全人類の願いであるにもかかわらず、米・英・仏・ロ・中の五カ国などが保有する核兵器は、未だに世界に約一万七、三〇〇発も存在し、核兵器の脅威から今なお人類は解放されていません。また、中近東、アフリカ、ウクライナ等、戦争の火種は絶えません。

こうした中で、唯一の被爆国の日本はじめ世界の多くの国々が、核兵器廃絶に向けた国際世論の形成や具体的な取り組みを進めてきました。その大きな成果の一つが国連の核兵器不拡散条約(NPT)の

取り組みです。

### NPT核不拡散条約とは

核兵器不拡散条約は、一九六八年七月一日からスタートしました。正式名称を「核兵器の不拡散に関する条約」(Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons) と言い、核兵器の開発、製造、保有を規制し、核兵器保有国の増加(核兵器の拡散)を防ぐことを目的とした国際条約です。日本は、一九七六年六月に批准し、世界の一九〇カ国が締結しています。非締結国は、インド、パキスタン、イスラエルですが、北朝鮮は脱退を宣言しています。このNPTは五年ごとに再検討会議が開かれています。運用が見直されています。今回は、二〇一五年四月から五月、ニューヨークの国連本部で開催されることになっています。

この条約を確実に実行し、核の拡散を防ぐことは、核兵器削減そして核廃止への大きな第一歩となるでしょう

### お金は人権保障に使え

私は二〇一〇年五月、この再検討会議にプレッシャーをかけるためのニューヨーク「核兵器のない世界のための国際行動デー」の平和行動に、石川県代表団の団長として参加し、あわせて潘基文国連事務

### 非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則(つくらず、もたず、もちこませず)を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。



政府はジュゴンが生息する辺野古の海とそれに隣接する大浦湾に軍港とオスプレイや戦闘機用の滑走路を

備えた巨大な新基地建設のボーリング工事を強行している▼キャンプ・シュワブ・ゲート前や辺野古の海では抗議行動が毎日行われ、抗議船やカヌー隊、救命胴衣を着けたプカプカ隊が活動をしている。フロートを超えて抗議行動をすると海上保安庁のボートが高速で追い廻し、力づくで拘束される▼小型スパッド台船から大型スパッド台船に変え深海部のボーリング調査に移るようだ▼やんばるの森高江は七月から「N1地区」の工事が始まったが、座り込みと監視行動で工事が遅れている。工事車両は県道から施設内の林道を使用する。住民の会は林道の入り口の未舗装の路側帯にテントを張り、車を止め警戒を強めている▼防衛省はこの入り口周辺の路側帯を月内にも地位協定に基づく立ち入り禁止区域に編入し、座り込みや監視行動の強制排除を目論み、第二のスラップ裁判をしようとしている▼高江の住民の闘いを描いた映画『標的の村』。金沢、加賀の上映会場で講演された伊佐真次さんが東村議会議長に立候補されると聞き有志を募り支援金を送った。伊佐さんは八人中六位で当選された。ヘリパッドも辺野古の新軍事基地もない沖縄へ！連帯しよう。(平)

総長に高齢者の人権保障のための権利条約策定の要請をしました。

石川県の代表団は一〇名でしたが、核廃絶デモへの和服での参加者が世界中の人々から注目され、記念撮影の花形として活躍しました(写真①)。

核兵器にノー、戦争にノー、そしてその金を、人々のニーズを満たすために使え、というのがニューヨーク行動のスローガンでした(写真②)。すなわち、Basic Human Needs を満たすのが基本的人権 Basic Human Rights に他ならず、その保障のためにこそ国家財政が発動されなければならないということなのです。

### 核廃絶そして非暴力主義

なお、この平和行動に出席した潘基文国連事務総長はそのスピーチで、NPTの目標を核削減、縮小にとどまらず核廃絶であると明言しました。

そして、この行動中一貫して考えたのは、非暴力主義の可能性でした。核抑止力論、そして防衛、正



① 2010年のニューヨーク行動



② ニューヨーク行動のスローガン



③ 高齢者権利条約制定のWGに出席

義の戦争論などに打ち勝ち、核を無くし、戦争を廃絶するためには、絶対非暴力主義しかないのではないか。その意味では、マンデラさんが、南アフリカで実現したアパルトヘイト廃止、白人への報復なしの国づくり。それが何故実現できたか。今も考え続けています。

以上のような意味でも、平和的生存権を保障した日本国憲法そして日本の平和運動の正しさとその価値を痛感しました。各国の参加者から、日本の核廃絶、平和運動への期待が語られました。

### 平和的生存権と積極的平和

その中で、人権としての社会保障と平和に生きる権利すなわち平和的生存権の意味、すなわち憲法前文、九条そして二五条についてより深く問う作業が必要だと痛感した次第です。

今まで、人類は、戦争やテロが欠乏すなわち飢餓や貧困を生みだし、他方、飢餓・貧困こそ戦争の原因となるという歴史をたどってきました。平和的生

存権は、こうした歴史に終止符を打とうという人類初の挑戦であり、憲法はまさに世界の先頭を走っています。その意味で、前文、九条と二五条、さらに人権の理念としての人間の尊厳を保障する一三条は一体であるというべきでしょう。まさに、平和があつてこそその人権保障です。

また、逆に、欠乏⇨貧困と生命・生存を奪われる恐怖から自由であり、すべての人々に人権が保障されてこそ平和な状態ということでしょう。平和とは単に戦争、暴力がない(消極的平和)というだけではなくて、人権が十分に保障された状態というべきです(積極的平和)。また、日常的な人権保障確立のための「不断の努力」(憲法一二条)こそ戦争を抑止し、平和に連なる途と言えらるでしょう。この意味で、積極的平和(主義)は用いられるべきであり、集団的自衛権の行使、そして戦争する国への憲法改正を進める安倍政権の主張は全く間違っています。

### 高齢者権利条約制定から平和へ

二〇一〇年五月三日、日本高齢者NGO代表団の一行は、前日のNPT(核不拡散条約)再検討会議へ向けた「核兵器のない世界のための国際行動デー」の平和・核廃絶デモの余韻の残るニューヨークの国連本部に高齢者の権利条約策定の要請に行きました。

そして、今年の八月に条約制定のための第五回ワーカーキンググループに出席しました(写真③)。また、来年五月にも人権条約制定の要請に行く予定です。高齢者権利条約制定が、核廃絶そして世界平和に連なるという確信を持っているからです。

二〇一五年NPT再検討会議にむけて次の四点を呼びかけます。

- ① ニューヨークの平和行動、再検討会議に向けて、世論を大きく盛り上げ核廃絶への道を開くものにしませう。
- ② 安倍政権の憲法改悪、軍事国家路線を阻止し、平和主義を堅持し憲法をより豊かに発展させよう。
- ③ 高齢者権利条約制定はじめ人権保障を確立し、平和な福祉国家を築きませう。
- ④ 原発に固執する安倍政権の真の狙いは、核保有にあると思います。核兵器と原発を一体のものとして廃絶させよう。

### 原発問題シンポジウム・講演要旨

#### 三年半を経過した福島県民の現実と

#### 打開の展望

清水修二・福島大学名誉教授

日本科学者会議が八月三〇日、三十一日金沢市駅西健康センターで開いた「第三五回原子力発電問題全国シンポジウム」での清水修二氏の講演要旨を紹介します。

福島第一原発事故は今もレベル3で継続しており、県内外の避難者は一三万一千人あり、震災関連死も一、六〇〇人を超えている。避難者の早期解消が大きな課題である。

事故から三年半経っても被曝による健康被害が大きな関心事であり、県民の不安は納まっていない。残念なことに原発を批判する勢力のなかにこのよ

うな県民の不安をおおるような言説があり、県民の間にミゾを深めている。

#### 福島とチェルノブイリとの違い

福島とチェルノブイリとの違いは、事故と災害の深刻さの度合いが異次元といつていいほど違うということ。福島原発事故では空气中に放出された放射能は、チェルノブイリと比べると極めて少く限定されている。

ベラルーシでは三万人の子どもが一、〇〇〇mSvを超える甲状腺被曝をしたという深刻な事態だったが、福島の場合は甲状腺被曝の推定値は三〇mSvであり、被曝線量が二けた違っている。チェルノブイリ事故では六、〇〇〇人の子どもが甲状腺癌となり一五人の子どもが亡くなったが、事故による被曝線量からみて福島で同じことが起きることはないと言える。

ベラルーシでの甲状腺癌の患者数は、〇才〜四歳が六六・二%、五歳〜九歳が三一・四%だったが、福島での全数調査による甲状腺癌の患者は五歳以下はゼロ、大半が一〇代である。原発事故由来か否か、この年齢差は重要である。

外部被曝については、生活協同組合の日常外部被曝線量の調査結果によると、福島県の最大被曝線量と最も低い北海道と青森県の中央値の差は年間換算で〇・六mSvであり、これが事故由来の追加被曝線量の最大値と推定できる。この数字により、福島に住み続けることが危険であると私は思わない。

内部被曝についても、生活協同組合の陰膳調査結果から天然のカリウム<sup>40</sup>Kの内部被曝（成人でおよそ四〇〇〇ベクレル）に比べれば、セシウムによる

内部被曝は無視していいレベルの量ということが明らかになった。

一方、県民健康管理調査の「こころの健康度調査」では、被曝による子どもへの健康被害への影響については「非常に高い」が三五%あり、「少し高い」を含めると六割の人が遺伝的な影響があると回答している。また「妊産婦の調査」でも七人に一人が放射能の影響を恐れて妊娠を望まないと回答している。極めて深刻な事態である。

#### 原発立地・双葉郡の現実

① 原発立地の双葉郡では、原発事故がいまだに収束していないことが第一の問題である。

② 県内自治体から福島第二原発を廃炉にせよ、の声があるが、双葉郡では数十年かかる原発廃炉の大規模工事に経済的な依存が続くことになる。脱原発はそう簡単ではない。

③ 福島第一原発を廃炉にしても高濃度放射線汚染水の土壌は残り、原子炉から取り出した燃料棒の持つ行き場もない。中間貯蔵施設は三〇年後に他に移動すると云われているが疑問である。半永久的に高濃度放射性廃棄物の保管場所となる可能性がある。

④ 住民がこの地域に戻っても飛躍的に高齢化が進行し、地域の復興は容易ではない。

#### 福島から訴えたいこと

- ① 偏見のない目で福島の現実を見てください。
- ② 健康被害の有り無しの議論と原発の是非の議論は切り離し、一緒にしないでください。
- ③ 子どもたちの将来に関しては癌よりも差別の方が深刻である。

④ 低レベル放射性廃棄物への対応は、理論面やモラルの問題でもあるが、私たちにとっては生活の問題である。

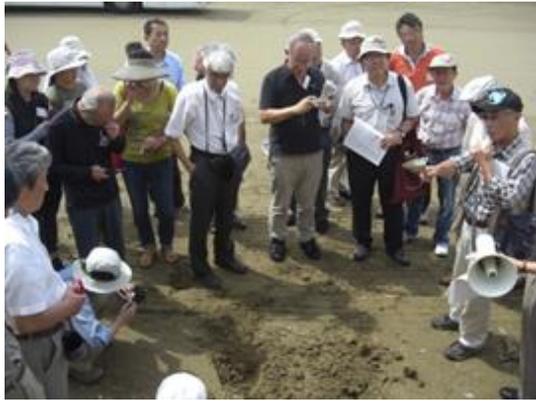
⑤ 中間貯蔵施設の建設は当事者意識を持って国民全体の問題として考えてください。

(文責 非核いしかわ編集部)

## 志賀原発周辺の活断層見学会に 全国各地から五〇人参加

日本科学者会議「第三五回原子力発電問題全国シンポジウム」(主催：原子力問題研究委員会、石川支部)が八月三〇、三十一日の両日、「福島原発事故から三年半―事故の現状と再稼働の動き、活断層問題」をテーマにして金沢市で開催され、一日目は約一五〇人、二日目も約一二〇人が参加しました。

二日目の午後には志賀原発周辺の活断層見学会



が行われて約五〇人の皆さんが全国各地から参加しました。見学会についてご報告します。

見学のバスは正午過ぎに志賀原発から五三・〇キロの金沢駅西保健センターを出発し、「里山海道の白尾ICを通過。原発から三八・三キロです」、「千里浜IC、一九・七キロです」などと、原発からの距離を知らせながら北上していきます。

午後一時、千里浜に到着。バスが浜辺の砂の上を走っていることに、県外の皆さんは驚いています。ここでは砂を二〇センチほど掘り下げて、葉理を見てもらいました(写真上)。葉理は波打ち際で波が寄せたり引いたりした時に、磁鉄鉱、角閃石、輝石などの密度の高い重鉱物が堆積してできる縞状のもので、海面から離れた標高の高いところの砂の崖で葉理が見いだされれば、その砂が昔に波打ち際に堆積したことを示します。初めて見た方も多く、鎌や移植ゴテで掘ったり写真を撮ったりしていました。

た。

次は志賀原発敷地のすぐ横に広がる岩石海岸に移動。立石雅昭さん(新潟大名誉教授)が、海岸に広がるベンチ(主に潮間帯―満潮線と干潮線の間)の地帯で、一日のうちに陸上になったり海中になったりする部分―にある平坦な台地)と、海岸に多く分布する断層について説明しました。

三つ目の見学地点は巖門で、道沿いに五メートル以上の厚さにたまった砂でできた崖(露頭)を観察してもらいました(写真中)。巖門の崖の砂には、かつて波打ち際の周辺で堆積した証拠が見つかっており、海成段丘の堆積物だと考えられます。海成中段段丘は志賀原発の周辺から北に向かって高くなり、富来川の右岸(北岸)で急に低くなります。このことは富来川南岸断層が活動していることを示す証拠です。

巖門では、遊覧船の船着き場の周辺の岩石海岸に広く分布するベンチと海食ノッチを観察しながら、立石さんが解説しました(写真下)。海食ノッチは、波食作用や海水の溶解作用によって、岩石海岸の崖にできる窪みです。志賀原発周辺の岩石海岸に分布する海食ノッチは、志賀原発の南の小浦から富来川左岸の領家港に向かって高くなり、富来川の右岸で一転して低くなっています。このことは富来川南岸断層の活動による隆起運動が、約六千年前の縄文海進期以降も続いていることを示しています。

参加者からは、「原発のすぐ近くの海岸に、これほど多くの断層があることにびっくりした」などの感想が寄せられました。

(児玉一八 記)

## I P P N W 世界大会・報告

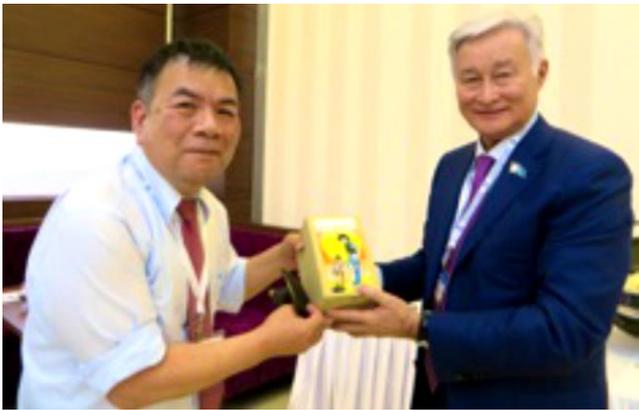
## 核兵器禁止条約の交渉が

## 開始される日が近づいている

原 和人

二〇一四年八月二七日から二九日まで、カザフスタンの首都アスタナで開催された第二一回 I P P N W (核戦争防止国際医師会議) 大会に参加してきた。今回のテーマは、「核実験の停止から核のない世界に」であった。カザフスタンのセミパラチンスク(現在セメイ)には、旧ソ連時代には最大の核実験場があり、一九四九年から四〇年間に四五〇回以上もの核実験が行われた所である。現在、カザフスタンは中央アジア非核地帯に加わっている。

今回の I P P N W の大会に参加して、「核兵器禁止条約の交渉が開始される日が近づいている」というのが実感であった。これまで、核兵器交渉は、N



ロシア語版「はだしのゲン」を大会会長の Abay Baigenzhin 氏 (I P P N W カザフスタン支部) に寄贈する筆者 (左)

P T 条約下において行われてきた。N P T 条約は、条約国のすべての合意を前提としているため、核保有国の抵抗により、核のない社会に向けての合意形成は極めて困難であった。

そのような中であって、非核兵器国から、「核兵器の人道的な結末」の論議が始まった。以前より国際人道法によって、細菌・化学兵器のような無差別に市民を殺傷する非人道的な兵器の使用は禁じられている。核兵器の使用は、広島・長崎の実相をみるまでもなく、現代社会においての核戦争のシミュレーションにおいても、「核戦争は計り知れない人的、物的な損傷を与えるものであり、いかなる国、組織においても、その人道的支援を行うことは不可能である」という状況となる。従って、核兵器こそが非人道的兵器の最たるものであり、核兵器を禁止する条約の交渉を開始しなければならないという結論に達している。

それに対して、核兵器国は、「核兵器の人道的結末」の論議が、核兵器国間で行っている核兵器削減交渉の邪魔をすると批判している。しかし、一九七〇年に発足した N P T 体制の中で、一度たりとも、核兵器国は核兵器の廃絶に向けてイニシアチブをとったことはない。

I P P N W は、核兵器廃絶国際キャンペーン (I C A N) 運動の中心的役割を果たしている。今回も、共同会長のテイルマン・ラフ医師は、「今年一二月に開催されるウィーンでの核兵器の人道的結末の会議では、核兵器禁止条約という法的枠組みの中で、核兵器の廃絶を求める方向にすすむであろう」と述べた。そして、ウィーンの会議への参加と、それぞ

れの国や自治体、組織において、「核兵器の人道的結末」についての論議を行い、それらの運動を I C A N 運動に結び付けるように訴えた。

非核兵器国を中心に、いよいよ核兵器禁止条約の交渉が開始されようとしている。一方で、核兵器国は、現在のところ、核抑止論にしがみつき、この交渉に参加する気配はない。しかし、いったん、核兵器禁止条約がつけられれば、国際人道法という規範のもとで、核兵器国もこれらの条約を無視するわけにはいかないだろう。N P T 条約下での交渉と「核兵器の人道的結末」の論議が、相互に影響しあって、核のない世界という終着駅に向けて、歴史の歯車が加速するであろう。

(核戦争に反対する医師の会代表世話人)

非核・平和のひろば

草の根から世界を動かす署名活動を

中内 晃子

私は来年の N P T 再検討会議・ニューヨーク行動に参加を決めました。「それまでに署名を集めよう」と思ったものの、普段は薬剤師として働いているので、六・九行動への参加もなかなかできません。それならば、毎日一人ずつ署名を取ろうと、四月の誕生日をきっかけに決意しました。来年四月の N P T まで一年間続けたら、四〇〇人近くになります。近所の方、パン屋さん、お肉屋さん、また子どもの学



原水爆禁止 2014 年世界大会・広島の  
閉会総会で発言する中内晃子さん

童のお迎えや、仕事帰りに自転車に乗って、知っている人を見つけては「来年ニューヨークに行つて、国連に核廃絶の署名を届けます」と話し、お願いしています。ほとんどの人が快く署名してくれ、今日までに三五〇人分になりました！

なんとなく声をかけづらかった方でも、署名を通して、「これは大切だね」「日本はこれからどうなっていくのか心配だね」とつながれて、自分の中のハードルが低くなってきました。病院で隣に座ったおじさんに声をかけた時は「わっしょー自民党だから署名はしない」と言われたけれど、核廃絶の話をしたら「核はダメやろう」と、思いが一致しました。署名を通しての出会いの一つひとつが、明日もと取り組む力になっていきます。友達や知り合いの思いが詰まった署信用紙は、私の宝物です。

「核廃絶」は私たちの絶対に叶えたい夢であり、目標です！ 集団的自衛権行使容認などで、子どもたちの未来がとても心配な今、次の世代への大きな責任です。ともに暮らすたくさんの人たちの日々の

生活の中にある平和への思いを、国連に届け、草の根から世界を動かす大きな力を作りたいと思います。

世界大会に参加して、平和への思いとエネルギーをもらえたこと、本当にうれしく思います。金沢に帰つてからも、まわりに人たちと力をあわせ、つながりをもっともっと広げながら、たくさんの人に訴えて、署名に取り組んでいこうと思っています。

皆さん、一緒に日本と世界を動かしましょう！

(新日本婦人の会石川県金沢支部)

◎本稿は、八月六日、七〇〇〇人が参加した原水爆禁止二〇一四年世界大会・広島閉会総会で「日本の草の根からの決意」として報告した中内晃子さんの発言原稿です。

### 非核石川の会 リレーエッセイ

#### 教育に臨時はない！

庭田智恵子

二年前、関西から金沢の地へ引越してきたIさんから「石川の臨時教員の待遇が悪い」と聞かされ、その会に出席していた教員の教員仲間と話し合いい「石川県臨時教職員問題を考える会」準備会立ちあげました。

私が「よし、やるしかない」と思ったのは、新採の大杉小中併設校(地元の教職員七十人私たち新採教員六人十二年目の教員一四人)でのこと。臨時教員のK先生が一年の任期で首きられ、泣く泣く富山の故郷へ帰られたのを見て、月曜から金曜まで

(家から通えなかったため)寝食を共にした仲間でも何にもできなかった悔しさがずーっとくすぶって、それに火がついたこともあります。

それからが大変。でもやればよかっただけの甲斐があり、少しずつ採用試験や待遇で改善がみられました。手探り状態の一年目は県下の臨時教員全員(約八〇〇人)にアンケートを送りました。その郵送代も馬鹿にならない大きな金額であり、それ以降、採用試験会場の門前で約一〇〇〇人に手渡す知恵がつき、今では私たち「考える会」の恒例行事になっています。

この頃は採用試験を受けられる年齢が二九歳まで(今は四九歳)で、昇級は二四ヶ月に一回で、しかも三回昇級で打ち切り(今は一二ヶ月に一回昇級で回数は制限なし)。それでも、大学卒業から六〇歳までずっと講師の場合、正規教員と生涯賃金が四〇〇万〜五〇〇万円違うそうです。また、採用試験日が通知表渡し前の七月一五日前後で試験勉強どころではありませんでした(今は夏休みに入った初日)。

『私たち臨時教員は使い捨て雑巾じゃない』の声を届けたい一心で毎年、夏にアンケート↓秋に署名活動↓冬と春の二回・県教委交渉をやっています。来年五月三〇日、三十一日に県青少年研修センターで「中部・近畿臨時教職員の集い」を開催します。

これ以上、教育の場でもどこの分野でも臨時を増やさず、「正規就業があたり前」をめざしていきましよう。

## 井戸謙一弁護士語る

## ―裁判所は変わるのか―

二〇〇六年金沢地裁で、稼働している原発に『人格権が侵害される』と志賀原発二号機の運転差し止め判決を下した当時の裁判長井戸さんは満面の笑みで講演された。

「従来の裁判は被告が安全基準の合理性、適合性を立証すれば一応安全と認めてきた。これに異を唱えたのが、志賀原発の判決で安全性が許可されているからといって、安全設計の妥当性に欠ける点がないと判断すべきでない」と自ら井戸判決について語り、「福井地裁の樋口裁判長の大飯原発差し止め判決は、司法の矜持を示した判決であり、全国のどの原発にも共通する。前例を踏襲せず、全く新しい判断の枠組みを立てた賞賛すべきものである」と語った。

思い切った判決にはそれなりの決意がいる。キャリア裁判官制度、人事権が最高裁にあるもとで、裁判官を動かすのは何か？救済しなければならぬ現実の認識。行政が対峙しないなら司法の一番という意識と多数の国民の支持である。「良心に従い、憲法と法律にのみ拘束される」その魅力を感じて裁判官になった人々たちである。

井戸さんは幾つもの原発裁判に係わりながら、滋賀県湖東地域で「原発をなくす自治体宣言」の住民運動の先頭に立って奮闘されている。「世論の確実な変化、この夏原発稼働ゼロ。全ての原発を廃炉に追い込むまで頑張り、今その道筋を作る正念場です」と結ばれた。胸が熱くなった東京での講演だった。（尾西洋子・非核石川の会常任世話人）

## 詩人会議かなざわ「独標」より

## 待機老人

高久 晴美

老人の未来という言葉は  
 なんだか少し不思議な響きだけれど  
 老人という生き者になると  
 不透明な現実がやってくる  
 あふれるあふれる彼等は  
 待機じいさんばあさんとなり  
 番号を付けられて  
 家族の重荷となっていく  
 それでも小金のある老人はいい：  
 入る場所をゲット出来れば  
 とりあえず三ヶ月、  
 とりあえず一年、  
 命がつかがるのだから  
 同じく老人となった子供に頼らず  
 いや、ほんの少し手を借りて  
 沢山の書類に記入、捺印してもらい  
 快適となる（と、信じる）日常を手に入れる  
 でも、お金の無い老人となったら…  
 ボケる事も、病気になる事も、  
 許されないのだ

待機する場所さえ無い

そこで少し

息子にゴマをすってみる今日この頃なのだ

## 「独標」

大川 陽一

「独標」は測量用語で「独立標高点」の略称です。海拔を示す標石の置かれている単独の無名峰であり、一定地域内において、あらゆるポイントの標高を測定する際の基準となる標（しるべ）という役割を果たします。

一九八〇年、私たちは新しい民主的創作運動の帆を掲げ、一人一人が自立への強い意思を持ち、地域の創造運動の標となれと機関誌名を「独標」と名付けました。

あれから三十四年、この世界に  
 いまだ止むことのない差別、貧困、戦争  
 世界に誇るべき、憲法九条を持つこの国が  
 今また銃を持ち、殺し殺されようとしている  
 目の前の、ふくしまを忘れたか  
 足元の、希望を持ってない人たちが眼に入らぬか  
 立ち止まるのではなく、立ち上がるのだ  
 人々よ、言葉をもて、こえをあげよ

（編集部注）「独標」は八月三十一日、野々市市交遊舎で開かれた「いしかわピース9フェスティバル」の展示部門に  
 出展された詩人会議かなざわの大川陽一さんの作です。

故清水正明医師の被爆絵画シリーズ⑬

相生橋八時十五分

— 人が降る —

八月六日 午前八時十五分少し前  
相生橋の上を

一台の軍用自動車が走っていた。

その後から荷馬車が一台、

そして歩道には仕事に急ぐ人々がいた。

ピカ・・・ドン・・・

一瞬 人も馬も車も橋も世の中すべてが青白い  
閃光の中に消えてしまった。

そして車はペシャンコになり

馬も人も川の中に叩き込まれていた。

やがて空中高く吹きとばされた人間が  
空から降って来た。



輪島市教育委員会所蔵

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班 竹味恭子



《編集室より》

◎二〇一三年九月号から連載してきた「故清水正明医師の被爆絵画シリーズ」は今回が最終回です。本紙への紹介を快く承諾いただいた輪島市教育委員会に厚くお礼申し上げます。この被爆絵画（一・三）は、本会ホームページに全てアップしてありますので、広めてくださることを期待しています。本会では、核兵器の非人道性、被爆の実相を継承していくため、次号以降も「被爆絵画写真」シリーズを計画しています。ご期待ください。（か）

◎市長選挙で応援を受けた見返りに「業者に便宜を図る」。発覚したら市長を辞職。係わった議員は口を噤む。責任追及をしない与党派。それならと再立候補を決め込む元市長。どうなってるんだ金沢市政！。問われているのは金沢市民の姿勢である。（平）

《非核平和・行事予定》

月	日	曜	時	行事名	場所
9	23	火・休	11:00	石川県解放戦士合祀追悼集會	金沢市卯辰山公園
	25	木	18:30	戦争をさせない石川の会講演会①特定秘密保護法の問題点 ②暴走する安倍政権と「知る権利」の危機	金沢市近江町交流プラザ
	26	金	12:00	核兵器廃絶国際行動デー・署名行動	武蔵町Mza前
	26	金	17:00	核兵器廃絶国際行動デー・署名行動	JR金沢駅東口鼓門付近
10	6	月	17:00	核廃絶署名行動	JR金沢駅東口鼓門付近
	9	木	12:00	核廃絶署名行動	武蔵町Mza前
	13	月・休	14:00	金沢市革新懇総会と活動交流	金沢市近江町交流プラザ
	25	土		石川県平和委員会平和の旅in信州（～26日）	
	26	日	10:00	石川県保険医協会 原発・いのち・みらいシリーズ講演会	金沢都ホテル
	30	木		沖縄県知事選挙告示・11月16日投票	
11	3	月・休	14:00	平和憲法公布68周年記念県民集會	石川県女性センター
	8	土	14:00	石川県学習協主催・アベノミクスと日本資本主義	ITビジネスプラザ

毎週金曜日 18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口